

今月の主な内容

- 2面:「買える薬物」潜むキャンパス
- 4面:学生は「自由」か?
- 6面:【サッカー】大体大が日本一
- 7面:【アメフト】関学日本一ならず



神戸大学ニュースネット

NEWS NET

©神戸大学ニュースネット委員会 <http://home.kobe-u.com/top/newsnet/>
 関西学生報道連盟共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-2-24ダイエービル4階
 電話 06-6307-1315 FAX 06-6829-6353 メール info@unn-news.com

【特集】 8面へ

阪神淡路大震災19年
薄れる記憶、
残る復興課題

1月号

部室利用時間の認識にずれ

学生「午後9時まで」寝耳に水

昨年12月20日、学生震災救援隊(以下、救援隊)のTwitterで「夜間に拠点で活動している学生が、事前の通達なく守衛の方から注意を受けるようになった」という内容がツイートされた。24時間の活動を求める救援隊と、昨年からの課外活動時間を午後9時までに徹底し始めている大学側。課外活動時間を巡る論争は、まだ終わりを待たない。

昨年6月、学生会館の使用時間が午後10時までから午後9時までとなったのは記憶に新しい。その際には学生との話し合いが持たれ、救援隊の活動拠点(Qボックス)がある鶴甲第一キャンパス(国文キャンパス)における課外活動時間にも触れられた。しかし「学生会館の時間短縮と同時に、国文キャンパスの部室の使用も午後9時としたつもりだった」大学側と、「話し合いで定められた範囲は学生会館と国文キャンパスのグラウンド・体育館だと思っていた」救援隊の間に認識のずれがあることがこの問題の背景にある。

救援隊が24時間の部室利用を求めたのはその活動の特性にある。昨年7月に山口県で発生した水害でボランティアを行うなど、災害派遣ボランティアを活動の一つとしている救援隊。代表の関本龍志さん(法・3年)は「国文キャンパスも課外活動が午後9時になったとは思っていなかった。災害はいつ起こるかわからないので時間に左右されないと困る」と不満を口にしている。一方、学務部学生支援課の中村俊彦さんは「活動内容が素晴らしいが、学内の施設を使っているならあくまで課外活動の範囲内で行ってほしい」と話す。「情報の伝え方がおかしかったのであれば改めたい」とし、学生らとのお互いの誤解を解くための場を持つという。しかし「大学としては『部室の使用時間は午後9時まで』という方向性を定めることは難しい」。

神戸大学課外活動共用施設規則
 第7条 共用施設の使用時間は、午前9時から午後9時までとする。
 3 前2項の規定にかかわらず、学長が特に必要と認めた場合は、共用施設の時間外使用を認めることがある。

神戸大学学生会館使用細則
 第3条 学生会館の開館時間は、毎日午前9時から午後9時までとし、休館日は、日曜日、祝日及び12月28日から1月4日までとする。ただし、学長が認めたときはこの限りでない。



学館にカメラ

学生会館に待望のカメラが設置された。防犯が目的で、昨年12月から稼働している。教年前に盗難があったことで要領が高まり、ようやく設置される運びとなった。

カメラは談話室の4台を筆頭に、各階の廊下や出入り口の共用部分などに設置されている。撮影した映像は簡単には見られないようルールが決まられており、プライバシーの侵害にはつながらない。

近年は、学生会館での盗難が減ったのと対照的に、六甲台グラウンド東にある共用施設での盗難被害が増えているという。しかし費用も決して安価ではないことから、学生会館と同様に、設置が数年後になることも考えられる。

曖昧さ残る
 関本さんが問題視するのは、認識のずれもさることながら、曖昧な部分が多いのではないかと感じた。神戸大学の規則集では、課外活動施設の利用時間に関する記述は「課外活動共用施設規則第7条」と「学生会館使用細則第3条」のみ。Qボックスのようにそれぞれの団体の部室となっている施設に関しては、厳密にはこの規則は適用されていない。

夜間に国文キャンパス以外の学内で活動することが多いという、ある課外活動団体の代表者(理・2年)は、知る限りでは守衛に声をかけられたことさえないという。しかし、「課外活動が午後9時までに終わらなければならない」という規定は、動物を扱う上で仕方のないことと許可している。「事前の申請があり許可されれば、救援隊が時間外に大学に帰ってきたときも対応することは可能」と中村さんは話す。



弓道部女子副主将の渡辺梨咲さん(法・2年)

ラグロス

古豪神戸大の完全復活

大学選手権で準優勝



男子ラグロス部が躍進した。11年ぶりの関西制覇として学生準優勝だ。2002年に成し遂げた関西5連覇。しかしその後低迷、2008年には2部降格を経験するも、2年後に再び1部昇格。そこからは常にファイナル3に出場し、3年目の正直でついに関西制覇を成し遂げた。この躍進はチーム全体がうまくかみ合った結果だ。守備では関西リーグ最優秀選手のG渡辺(農・4年)を中心に、DF吉田(発達・4年)らが堅い守りを見せる。ファイナル3決勝、立命館大戦ではDFのスタメン2人が負傷退場する緊急事態。それでも、控えの藤村(発達・2年)と角(経営・4年)が活躍する。層の厚さを見せた。

攻撃面ではエースのMF辻(農・4年)、AT沖田(国文・3年)らを中心に守備からの速攻を得意とする素早い攻めを見せてきた。関西を制覇したが、全日本選手権では早稲田大に敗れ準優勝。「実力差で負けた」と話した主将の亀田(経済・4年)。レベルの高い関東のチームには一歩及ばず、神戸大初の優勝はならなかった。

「学生日本一」へと突き進む。【高橋和弘】

1部昇格 照準合わせる

渡辺さんと弓道の出会いは高校時代。弓を引いた状態で上手く間合いが取れなくなってしまう「早気」という悪癖に悩まされていた。大学で入部後も「早気」は直らず。それでも「練習するしかない」と開き直り、2年生になって「早気」を克服。試合で活躍できる機会が増え「達成感を味わえるようになった」と話す。

今は弓道部女子の副主将で、部を引っ張る立場。ミーティングでは厳しい言葉を部員に飛ばす。他の部員からは「怖い」と形容されることも。しかし、厳しさは部への思いの裏返しだ。「自分個人よりも、団体の方が大事」と柔和な笑顔で語る。こんな言葉は「弓道が好きというよりもこの部活が好き」という部への愛着からか。

的を見据え、どっしりと構える。弓を持ち上げ、ゆっくりと弓を引き、矢を放つタイミングを見計らう。彼女の鋭い視線の先には「1部リーグ昇格」がある。【仲林恒平】

先制点につなげるなど、この試合が引退試合となった4年生の活躍もあり、相手攻撃陣を完封した。リーグ戦を1勝6敗の7位で終え、2009年以来の入れ替え戦出場となった神戸大。下を目指してやってきてこの結果というのは大きな打撃。改革が必要と話し合った萬谷ヘッドコーチ。来季はリーグ4強の牙城を崩せるか。【尾崎諒】

大学での新生活に!
就活にグ〜ンと有利!

朝日新聞

未来を創る大学生のあなたへ
大学生応援価格の登場です。

朝日新聞月々購読料 (通常価格)3,925円

↓
大学生応援価格

2,500円

※大学生応援価格2,500円は、1ヶ月の購読料(税込)です。ひとり暮らしの大学生限定です。1年以上のご購読契約で、口座振替または、クレジット払いが条件となります。

お問い合わせ・お申し込み

ASA 神戸なだ

神戸市灘区土山町 1-13
☎ 078(851)5678
✉ info@asa-kobenada.com

伏流水

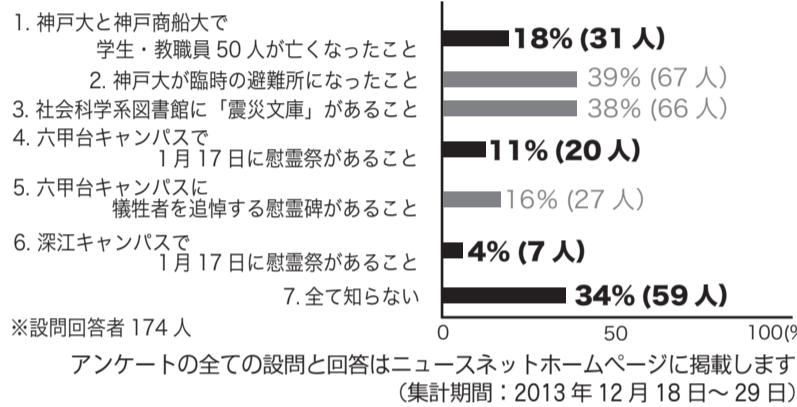
昨年12月6日、特定秘密保護法が参議院本会議で可決、成立した。この法案は防衛、外交に関する情報を特定秘密に指定し、それを漏えいさせたり取得しようとした人に罰則を与えようとするものである。法案の是非については、さまざまな議論があり、また論じられるほどの知識や自信も持ち合わせていないので、ここでは避けたい。代わりに「秘密を守る」ということについて考えてみることにする。過去には、日本のある外務大臣が他国の軍事機密を話してしまったこともあるという。これでは他国から信用を得られるはずもない。重要な情報はいざというときに日本には教えられないままになってしまいかねない。身近な人間関係に置き換えてみても同じだと思う。明確に言われない場合もあるかもしれないが、内容やその状況から、秘密だと察することはできる。それを簡単に話してしまっている。信頼されるわけがない。恥ずかしながら、大学に入った当初は口の堅い方ではなかった。あまり知られていない話を聞くと、喜んで話していたような記憶もある。そのせいで失ってしまったかもしれない信用は計り知れない。政治に関心を持ち国の動きを注視することは大切なが、自分も含め一般人が、特定秘密になるような情報を得る機会はある。それよりは、友人との間に制定された「特定秘密保護法」を守り、信頼を得られるよう心がけながらこれからも過ごしていきたい。【香月隆彰】

震災特集2014

阪神・淡路大震災から19年



六甲台キャンパスで行われた昨年の慰霊祭の様子。一般学生にはほとんど知られていなかった。



阪神・淡路大震災から19年。被災地神戸で生まれた学生、震災支援を続ける学生は着実に進み風化に危機感を感じている。

田代将伍さん(発達・2年)は、甚大な被害を受けた神戸市長田区で生まれた。震災当時1歳で記憶は無いが、家族や学校の先生から繰り返し被災体験を聞いている。小中高では熱心な震災教育を受けたが、神戸大では震災関連の授業があまりないように思うという。「SNSでも1月17日になると神戸の友人たちは震災についてたくさんつぶやいている。でも他



復興住宅で続くお茶会活動(2013年12月7日・県営岩屋北町住宅で 撮影=田中謙太郎)

「進み風化を実感」
「灘地域活動センター」(N・A・C)は、被災者らが暮らす復興住宅で15年間支援を続けている。近年は自治体や企業から活動助成金を得るのに苦労するようになった。メンバーの大坪孝子さん(農・3年)は「時に教訓を語り継ぐことばかり難しいと思う」。

「被災者でも語り継ぐ」
阪神・淡路大震災で死をさまよった被災者、そして我が子を亡くした遺族。17の当事者たちは、風化を日々痛感しながら生きている。19年の月日が経過した「いま」に何を思うのか。

1999年に工学部を卒業した確井和貴さんは、地震発生直後自宅アパートで生き埋めになっていたこと

アンケートは神戸大生を対象にインターネットと紙媒体を通じて行い、177人から回答を得た。

「神戸大入学後に震災への意識が変わったか」という問いに対し、「特に変わらない」「あまり変わらない」としたのはそれぞれ45%、16%と合計で61%に達した。神戸大と阪神・淡路大震災の関わりについても認識の低さが顕著に表れた。50人の犠牲者が出たことを知っていたのは18%、六甲台と深江の両キャンパスで毎年開催される慰霊祭については10%前後の認知

神大生アンケート

大学との関わり知られず

にどまる一方、全ての項目を「知らない」とする回答も全体の3分の1に上った。

阪神・淡路大震災の経験者は全体の6割にあたる108人。うち6人は身内に死者が出たり避難所生活を送るなど大きな被害を受けたという意見もあった。

薄れゆく記憶

残る復興課題

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災から今年で19年目を迎える。神戸大と神戸商船大(現海事学部)では学生や教職員ら50人が亡くなった。震災後に生まれた世代が大学に入学し始めた現在、学生の間で震災の記憶は薄れてきている。忘れてはいけないと考える学生は多いが、震災は過去のものという声もある。支援活動を行う学生、遺族も風化を実感している。しかし、阪神・淡路大震災の被災地は復興をめぐる多様な問題に今なお直面している。阪神・淡路大震災の教訓を東日本大震災の復興や予測されている数々の大型地震に生かすためにも、整備された神戸からは見えにくい「いま」に迫る。

【井沼睦・鈴木太郎・田中謙太郎】

＜あなたにとって阪神・淡路大震災とは？＞

- ※ () 内は発災時の年齢と居住地
- ・ごくたまにトラウマとしてよみがえる (5歳・兵庫県西宮市)
 - ・被災記憶はないが、避難生活や震災教育を通しておおまかなイメージを持っている。「震災」といえば3.11より1.17がまず思い浮かぶ (0歳・兵庫県神戸市)
 - ・直接経験はないが、親しい人が苦しんでいる。いろんな意味で終わっていないもの。いつしか自分の大学生活と関係するものになった (1歳・岐阜県)
 - ・東日本大震災のボランティアを通じて初めて考えるようになった (2歳・大阪府)
 - ・歴史上の出来事というイメージ。3.11などで印象が薄れた (2歳・滋賀県)
 - ・本当は語り継いでいくべきなのに、記憶がないので何もできない。そんな過去の出来事 (2歳・兵庫県神戸市)
 - ・神戸の大学に通っている割にどうも遠い存在 (0歳・大阪府)

兵庫県震災復興研究センター

出口 俊一 さん

阪神・淡路大震災直後に発足した民間研究機関「兵庫県震災復興研究センター」事務局長の出口俊一さんは復興過程の問題を研究している。「防災のための教育や法整備は行われているが、復興問題への対策は不十分」と指摘する。

仮設住宅や復興住宅での孤独死は2013年1月までに1011人にのぼった。被災者向けの借上公営住宅は2016年から順次返却を迫られる。高齢者や低所得者など「震災弱者」のその後、大規模な再開発計画が失敗した長田区の問題など、震災から19年たった神戸にはまだまだ

センターの事務所は長田商店街の住民から借りた小さな平屋だ

「復興問題は現在進行形」

さまざまな課題が残されている。震災研究センターは阪神・淡路大震災の復興費用16兆3千億円の利用の実態を明らかにした。兵庫県と神戸市による「創造的復興戦略」の結果、復興費用は神戸空港や高速道路など被災者に直接関係のない大型事業にもつきまわっていた。この調査をもとに、東日本でも同様の問題が起きていることがNHKにより報道された。「復興の定義がいま異なるため、防災や創造的開発という名目で復興費用が濫用される。阪神・淡路の教訓が生かされていない」。同じ過ちを繰り返さないために被災者の生活再建を確かなものにする「災害復興制度」を確立させることを出口さんは目標としている。

若い世代が阪神・淡路大震災に興味を持ちづらいことは当然だと出口さんは言う。「風化することを前提にそこからの回復を考えたい。教育機関が防災・復興教育を小学校から大学までの教育課程に位置づけるべき。災害の問題は広い分野にわたるのでどの学部でも教えられる」。